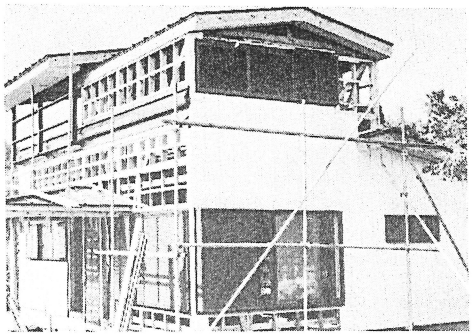
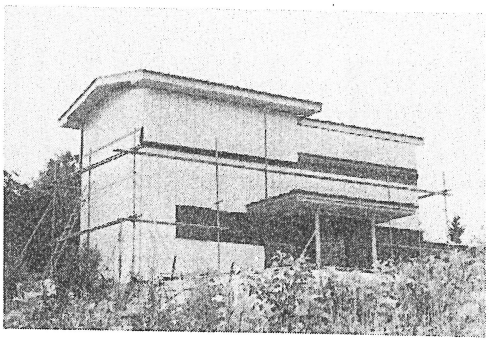


サッシを取り付けて、外壁張り

なるべく自分達の手で作ろう！
　という趣旨のもとに時間の取れた人は作業に参加した。写真は玄関横の壁下地用防水紙を貼る久保田須弥さん。

ペンキ塗りもメンバーの仕事。
足場の上の作業はタイヘン。



1985年８月、とりあえず完成
　しかし、この時点では内部は二階を除いて全く手つかずの状態で、「まるで映画のセットみたい」との声もあった。

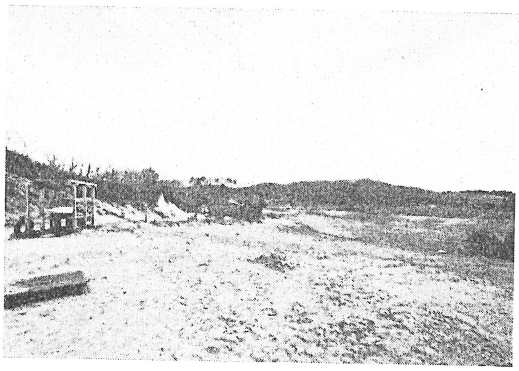
いわき天体観測所建設計画とその立地条件

斉藤勉

１９８８年１１月６日、ここにやっと「いわき天体観測所」開所式を迎えることができました。最初の「やろう！」の一声から実に６年半後のことです。当時の計画では東京を中心とした天文同好会「獅子座天文研究会」として、私のほか田中さん、古田さん、新妻さん、久保田さんの５人で発足しました。しかしメンバー数の不足などから同好会とは切り離し、独立した形になったのです。建設予定地の選定に当たっては、１年半の間、新月の晴れた夜、地図を片手に車で東京周辺１５０キロを走り回りました。そうして決定したのが「いわき」なのです。そのいわき天体観測所の立地条件の特徴として、まず空が大変暗いことです。その暗さはシュミットカメラを空のどの方角でも光害を気にせず向けることができます。さらに重要なことは、観測所周辺が八ケ岳周辺などと異なり観光地でないということです。つまり我々にとっては将来性？ある所だと言えると思います。そして観測所からの視界も良好で、秋から冬にかけて快晴率が非常に高いのも特徴です。また電気、電話、井戸が使用できるので快適な観測所生活が楽しめます。

このように星を見るのにいくら良い所であっても、そこに気軽に行けなくては意味がありません。その点「いわき」へは常磐自動車道の開通により東京から２時間半で行くことができるので、場合によっては平日でも観測可能ですし勿来ＩＣから観測所までの道もすべて除雪されるので通年利用できます。

最後に、私にとっていわき天体観測所は、天文を始めて１７年来の夢であり私の天文活動、いやそれ以上に私の人生のすべてと言っても過言ではないと思います。こうして観測所が完成した今、私は私の最終天文（＝人生）目的に向かって一歩を踏み出して行きたいと思っています。



観測所から東方向を見たようす
視界は東～南～西にかけてバッグン。北方向は木立のためあまり良くないが、観測にはたいして困らない。建設当時の1983年には灯りがまったく１つもなく、曇りの夜などは自分の手さえも見えなかった。

いわき天体観測所とスカイラインＲＳ

新井　保

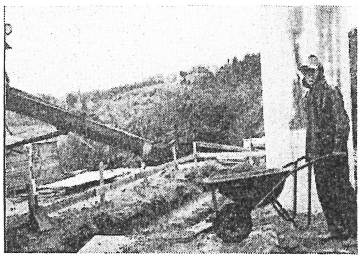
昭和58年の冬の頃だったろうか。いわき市と鮫川村境界付近を、田中政明氏や斉藤勉氏と観測所建設場所を、必死にさがし回ったことを、ふと思い出した。

買って間もないスカイラインＲＳへ、タイヤチェーンを巻き、雪でおおわれた真っ白な林道を、車体をこすりながら走った。せまい林道は、輪だちのあとが深くえぐられ、道の中心付近がとても高くなっていたのだった。そんな悪路をずいぶん走ったら、鮫川村のある山の中腹で、新井優氏のグループに出会った。まったく偶然であった。新井優氏といえば、天体写真家として有名な方である。各天文雑誌の月例で、毎月のように入選している常連であった。しかし、撮影地は『福島県鮫川村』としか、発表されておらず、私達天体写真愛好家の間では、彼の撮影地はどこなのか、いつも話題になっていた。そんな、秘密の場所をさがし当ててしまったのだ。

結局、観測所は今の場所に建てられたのですが、新井優氏の観測場所から、きわめて近いところに、決定したわけである。

もし、あの時、新井優氏に会わなかったら、『いわき天体観測所』は別の場所に建っていたかもしれません。

あれから５年、ようやく『いわき天体観測所』の開所式を迎えることになりましたが、僕の愛車スカイラインＲＳは、もう10万㎞も走り抜き、引退間近になってしまった。しかし、今日もまた、日増しに古くなっていくスカイラインＲＳに乗り、来るたびに完成へ、一歩一歩近づいてきた『いわき天体観測所』へ、やってきました。近い将来、この観測所よりも、もっと新しい、ピッカ、ピッカの新車に乗って、天体写真を撮りに来ようと思っています。



雨の中で観測所の基礎コンクリート打ちをする新井保さん

星の別荘「いわき荘」

佐藤秀和

いわき天体観測所の建設が始まってはや５年が過ぎようとしています。ここにようやく観測所が一部の工事を残すのみで完成となり、開所式を迎えられることは、メンバーの一員としてたいへん喜ばしく思います。

振り返って、この５年の間、私の観測所の利用状況も少しづつ変化があったようです。

メンバーとなった83年に結婚し、以前のように自由に自分の時間がとれなくなり、観測にもある程度制約がつくようになりました。それでも何回かは観測所へ足を運んでいましたが、当時まだ常磐高速が未完成だったこともあって片道６～７時間かかり、また観測所の赤道儀の調整が十分でなく、自分の機材を持参しての観測も多かったようです。

そのような状態のため、時間のないときはジプシー観測も並行して行っていましたが、そのうち子供が生まれて益々時間が取れなくなり、年間を通して１回も観測所へ行けなかった年もありました。それでも子供がある程度大きくなり、また観測所も少しづつ出来上がり過ごしやすくなってくると、こんどは家族で観測所を利用できるようになってきます。最も夜起きているのはほとんど私だけですが・・・

さてそうなってくると私自身の観測所の利用方法にも変化がおき、以前は車に機材を満載して１人でやって来ましたが、今後は機材と共に食料、生活用具等を積んで家族でやってくることも稀にはありそうです。

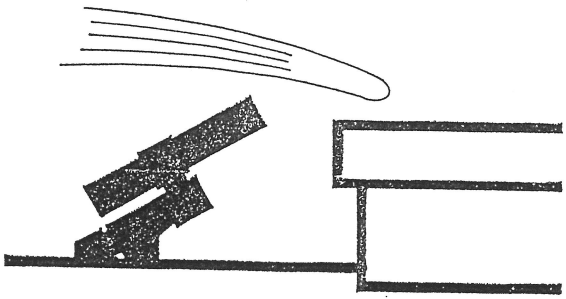
忙しい仕事の合間の一時、私はいわき天体観測所を今までは観測所として、今後は観測所とそして時には星の別荘として利用して行きたいと思っています。あまり他のメンバーの観測のジャマにならない時期を選んで　・・・

いわきでの正月

米沢正博

観測所ができてから、私は正月をいわき天体観測所で過ごしてきた。年末の三十日くらいから一月五日ぐらいまで一週間滞在するわけである。一九八五年年末から八六年一月五日まで、隣の農作業小屋に泊まりこんで地球に近づきつつあったハレー彗星の観測を行った。ハレー彗星が西の山かげに沈んでしまうとそのあとは、銀河系外星雲の写真を写した。主におとめ座、かみのけ座の星雲群、りょうけん座の星雲など次々と写していった。そして昼間フィルムを現像するわけである。フィルムの現像は水洗と乾燥が大変だった。水洗は手押しポンプで汲み上げた水に漬けておくだけ。乾燥がまた大変、気温が氷点下になっているので普通につるしておけば、フィルムの表面が凍ってしまう。しかたがないのでヘアードライヤーで乾燥させる。毎晩快晴で写真を写すのに忙しくて三日もたつと睡眠不足になってしまった。

食料の管理も大変だった。野菜を外に出しておくと何でもカチンカチンに凍ってしまう。凍らせないためには冷蔵庫に入れて保管しなければならなかった。昼の十一時頃おきて米をとぎ、飯を炊いてみそ汁を作る。後は野菜サラダ。水道が使えないので食後の洗いものも大変だった。他の人は車で青野食堂へ食べに行ってた。そのほうが便利なのだが何分車がないので自炊するしかなかった。

月のない夜、いわき観測所のジュータンに寝転んで満天の星を見ていると「今私は大宇宙の中にいるんだな」という気分になってくる。普段はあまり地球が動いているということを意識しないけれど、星座がだんだん西の方に動いて行くことで確かに地球は動いているという実感がしてくる。

今回台所も仕上がって、居住性も良くなり今年の年末は快適な正月がいわき天体観測所で過ごせそうである。また望遠鏡も25ｃｍライトシュミット鏡から30ｃｍニュートン鏡に変わったので、銀河系外星雲も今までよりはっきりと写せるようになると思う。年末が楽しみである。